



1984年 ロサンゼルス・オリンピック

# 1985年1月 神理をまなぶ会 第1回開催

## 神理をまなぶ会について

今年から、「神理をまなぶ会」として皆さんと一緒に神理を、まなんでいきたいと思えます。

「まなぶ」とは、平がなで書きます。会と名前は付けてありますが、私が先生でも、会長でも、また誰が会長でもありません。皆さんが会員でもありません。

一緒に神理を学ぶ集いとでも言いましょうか。従ってこの会は、会則も会費もありません。話を聞きに来て嫌だと思えば来なくてもよいし、また、それを誰が咎めることもありません。

今年は、反省、指導を重点にしていきたいと思えます。生まれ変わるということ

が大事です。生まれ変わるということとはどういうことかということ、永遠の生命を得るということです。(中略)

生まれ変わるには、まず暗い心を明るく変えていくことです。苦しんだり、暗くなっていることには、必らず原因があります。その原因をとりぞく反省をして、明るくし、そして、神の光を受けられる自分になろうと決心し、実践していくのです。

それを邪魔しているのは、「我」なのです。「我」があるからできないのです。「我」をなくした時、本当に自分が「神の子」であり、慈悲と愛の塊であり、みんな兄弟であり、みんな同根であり、みんな自分の為<sup>われ</sup>に存在して、我は宇宙そのものだ。

1984年はロサンゼルス・オリンピックが開催され、体操の具志堅、柔道の山下らの活躍で大盛り上がりした一年となりましたが、明けて1985年(昭和60年)の1月13日、大阪は羽曳野市の一角で、田池先生が主催する「神理をまなぶ会」が産声をあげました。

これまで、田池先生は、有志の方々のご自宅に出向き、そこに集まってきた方たちに「人生の目的は?」「人間は意識です」「人間は霊です」と話し続けてこられました。その延長線上でのスタートであり、ここから更に「反省研修会」へと発展していくことになります。

では、その第一回「神理をまなぶ会」での田池先生の第一声をご紹介します。

すべての人=「多」ですね。私=「一」ですね。「一即多」、「多即一」、同じなのです。そこには差別もなければ、区別も、憎しみも、争いも、貧乏人も、金持ちも、頭の良いのも、悪いのも、何もない。何もない。

ただあるのは、命がある。その命は、すべてを生かす命、すべてを生かす命しかない。だから「我」がある時は、その命は弱まります。

「我」を捨てなさい。「我」こそ罪の根源です。苦しみの根元は、「我なのです。偽我です」ね。肉のことを言うのです。人間というのは、肉の生活のことが欲しくなるのです。だから努力しているのです。

けれど、それだけでは、いけません。そうしていると、いつかは色々な困難が起こり、争いが起こり、病なり、苦しみなり、災難が起こってきます。それを、「してはいけない」とは言っていないのです。それだけに終わってしまって、魂を磨くことを忘れてしまうと、言っているのです。

自分が蒔いた種を見つけ、それを取り除く反省をし、明るい心になって、明るくしていくのです。取り除くのは、自分しかできません。相手の罪を、大きく思うのは、自分の「我」が大きいからです。「我」を、捨てて行くのです。

(1985年1月13日)

### 丹田呼吸と反省について

坐って楽な姿勢で丹田で息を整える。丹田とは、おへその少し下です。この呼吸法は腹を立てやすい人に良い。息を吐く。吐くと、お腹がへこむ。お腹の中のものもやを全部出すつもりで息を吐く。吐いた後、息を吸うとお腹がふくれる。ふくると息をとめ「一つ、二つ」と、八つ数える位迄息を止める。無理をして止めないこと。そして、また、お腹の中のものを出すつもりで、ハアーツと吐く。だいたい3回位繰り返す。

私はこれが自然で良いと思ってやっています。すると気持ちが落ち着きます。落ち着いたら、反省をする。反省するのも楽な姿勢です。まずは、お母さんの反省をする。お母さんに過去で約束しましたね、お母さんは生まれ、そして相手の男の人と結婚しましたね。相手を見つけるのは大変ですね。相手が違う人だったら、みなさんは、今、生まれていませんね。

予定通りに結婚してくれると大変ありが

たいですね。結婚しても仲よくしてくれなかったら、私は生まれません。仲よくしてくれて肉体を作ってくれたでしょう。だから、その肉体に私は入っていきけるのです。

今度は長い間育ててくれたでしょう。その時、お母さんの環境を見てみたら、御主人がパチンコをしたり、競輪、競馬に凝って、貧しいとかいろいろありますね。その中においても、お母さんは心を動かさないうで、やさしく、温かい心で育ててくれました。それは大変な愛情ですね。こんな子供いらないと思われながら生まれてごらん下さい。

お母さんは喜んで私を生んでくださったのです。今は簡単に墮ろしてしまいますね。だから日本で生まれるのは大変なんです。途中で殺されないかと思うんですね。そんな心配もなく安心して、お母さんのお腹におって、そして生まれてきたのです。大変だったお母さんに感謝ですよ。これほどありがたいことはないですよ。そのお母さんへの感謝をしっかりと思いおこすことが